

平成 28 年度事業報告書

平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日

I. 社会貢献啓発事業（公益目的事業 1）

1. 機関誌『フィランソロピー』の発行

当協会の活動報告とともに、社会の課題を抽出し特集として企画・編集した。

平成 28 年度	特 集
No. 373（4-5 月号）	第 13 回企業フィランソロピー大賞 第 18 回まちかどのフィランソロピスト賞
No. 374（6-7 月号）	フィランソロピーの温故知新 熊本地震の支援、いまこれから
No. 375（8-9 月号）	進化する CSV の未来を考える
No. 376（10-11 月号）	これからの多様なボランティアの役割と可能性を探る
No. 377（12-1 月号）	寄付に託すもの～寄付月間に寄せて
No. 378（2-3 月号）	未来の幸せを創るため、今、何をすべきか

2. 創業イノベーション

社会課題にチャレンジする企業経営者にインタビューし、ウェブに掲載。

平成 28 年 1 月 1 日スタート。随時、ひとりの経営者について 4 回に分けて連載している。

平成 28 年度	インタビュー
第 1 回（1-2 月）	敷島製パン株式会社 代表取締役社長 盛田淳夫 氏
第 2 回（3-4 月）	株式会社モンベル 代表取締役会長 辰野 勇 氏
第 3 回（5-6 月）	カレーハウス CoCo 壱番屋 創業者 宗次徳二 氏
第 4 回（7-12 月）	ロート製薬株式会社 代表取締役会長 兼 CEO 山田邦雄 氏
第 5 回（1-3 月）	株式会社富士メガネ 代表取締役会長兼社長 金井昭雄 氏

3. インターネットを利用した情報提供事業

ホームページ、メールマガジンを補完する情報発信源として、協会をより身近に感じていただけるトピックを選び、職員全員で情報をアップしている。

<https://www.facebook.com/philanthropy.or.jp>

Ⅱ. 社会貢献促進事業（公益目的事業2）

1. 研修事業

(1) 定例セミナー

実施日	内容	参加者数
第 317 回 平成 28 年 4 月 26 日	CSR 基礎講座 『CSR 経営に資する社会貢献の推進～社会の中での企業の役割～』 ＜講師＞高橋 陽子 (公益社団法人日本フィランソロピー協会 理事長)	18 名
第 318 回 5 月 18 日	CSR 基礎講座 『企業の社会貢献活動を立ち上げ広めてきた経験からの示唆』 ＜講師＞嶋田 実名子 氏 (個人情報保護委員会委員、前 公益財団法人花王芸術・科学財団 常務理事、元 花王株式会社コーポレートコミュニケーション部門理事)	24 名
第 319 回 6 月 3 日	CSR 基礎講座 『CSR 活動の土台となる理念の構築と社内を動かす仕組みづくり』 ＜講師＞黒坂 三重 氏 (楽天株式会社 執行役員 CSR 部 部長)	33 名
第 320 回 6 月 13 日	CSR 基礎講座 『企業における CSR 担当者の役割と期待されること』 ＜講師＞金田 晃一 氏 (武田薬品工業株式会社 コーポレート・コミュニケーションズ& パブリックアフェアーズ CSR ヘッド)	34 名
第 321 回 7 月 22 日	『企業は、なぜ CSR に取り組むのか～欧州の先進企業の事例から考える～』 ＜講師＞下田屋 毅 氏 (Sustainavision Ltd. (サステイナビジョン) 代表取締役)	30 名
第 322 回 9 月 15 日	『「良心」による企業統治を考える～「良心」と「自利心」の双方を活かした 経営とは～』 ＜講師＞田中 一弘 氏 (一橋大学 大学院商学研究科 教授)	16 名
第 323 回 10 月 27 日	『福島県の障がい者スポーツ普及活動から企業のボランティア機会を考える』 ＜講師＞増子 恵美 氏 (公益財団法人 福島県障がい者スポーツ協会 書記)	18 名
第 324 回 11 月 25 日	『社員ボランティアの推進～先進的な取り組み企業事例と協働 NPO からのヒント～』 ＜講師＞ 植木 陽子 氏 (MSD 株式会社 広報部門 企業広報 シニア・スペシャリスト) 佐藤 貴之 氏 (株式会社 ジェーシービー 広報部 CSR 室 主事) 五十嵐 哲 氏 (大日本印刷株式会社 CSR・環境安全部 CSR 推進チーム) 竹垣 英信 氏 (NPO 法人森のライフスタイル研究所 遊撃隊員兼代表理事所長)	30 名
第 325 回 12 月 26 日	『誰もが求める人と人とのつながり ～映画「隣(とな)る人」から人に寄り添う意味を考える～』 映画：『隣る人』 対談：『子どもに寄り添うということ』 ＜話し手＞児童養護施設 東京家庭学校 施設長 松田 雄年 氏 ＜聴き手＞公益社団法人日本フィランソロピー協会 理事長 高橋 陽子	65 名
第 326 回 平成 29 年 1 月 18 日	『スポーツを通じての社会貢献活動と人材育成を考える』 ＜講師＞北澤 豪 (きたざわ つよし) 氏 (サッカー元日本代表 / (公財) 日本サッカー協会理事兼フットサル・ビーチ サッカー委員長 / (一社) 日本障がい者サッカー連盟会長)	57 名

第 327 回 2 月 21 日	『社員参加型の社会貢献～社内募金・マッチングギフトにおける工夫～』 ＜講師＞ 伊藤 春香 氏 （アメリカンファミリー生命保険会社 広報部 社会公共活動推進部長） 瓜生 振一郎 氏 （三菱重工業株式会社 グループ戦略推進室広報部 CSR グループ グループ長）	37 名
第 328 回 3 月 21 日	人材育成に資する社会貢献活動の戦略的可能性 ＜講師＞ 伊藤 佐和 氏 （ジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループ 社会貢献委員会 マネジャー） 広瀬 雄樹 氏 （積水ハウス株式会社 コーポレート・コミュニケーション部 CSR 室長）	31 名

(2) フィランソロピーセミナー

今年度は、地方で開催するセミナーを「フィランソロピーセミナー」というタイトルにし、大阪で4回開催した。

実施日	内容	参加者数
第 21 回 平成 28 年 7 月 26 日	『NPO に聞く－社員ボランティア推進のアイデア』 ＜講師＞ 高野 太一 氏 （認定 NPO 法人ビッグイシュー基金） 福田 留美 氏 （NPO 法人 にしよど にこネット） 浜辺 隆之 氏 （大阪市ボランティア・市民活動センター）	33 名
第 22 回 9 月 20 日	『CSR を支える企業理念と社員のエンゲージメント強化の取組み』 ＜講師＞黒坂 三重 氏 （楽天株式会社 執行役員 CSR 部 部長）	22 名
第 23 回 11 月 18 日	『社員参加型の社会貢献～マッチングギフトの可能性』 ＜事例紹介＞ グンゼラブアース倶楽部（グンゼ株式会社） 積水ハウス マッチングプログラム（積水ハウス株式会社）	29 名
第 24 回 平成 29 年 3 月 10 日	『CSR の最新トレンド～SDGs 時代の企業責任』 ＜講師＞関 正雄 氏 （損害保険ジャパン日本興亜株式会社）	34 名

(3) 会員企業向け勉強会 Stone Soup Club（ストーン・スープ・クラブ／SSC）

実施日	内容	参加者数他
第 39 回 平成 28 年 7 月 29 日	『障がい者スポーツを通じて共生社会の在り方を考える』 ＜講師＞ 村上 光輝 氏 （一般社団法人日本ボッチャ協会強化指導部長/リオデジャネイロパラリンピック ボッチャ日本代表ヘッドコーチ） 廣瀬 隆喜 選手 （リオデジャネイロパラリンピック ボッチャ日本代表） 杉村 英孝 選手 （リオデジャネイロパラリンピック ボッチャ日本代表）	19 名
11 月～1 月 協働活動	『被災地の子どもたちに絵本を届けるクリスマスプロジェクト』 （4 年目） ＜協働 NPO＞ NPO 法人「地球の楽好」	26 社 3,414 冊

第 40 回 平成 29 年 2 月 16 日	『JCB 社会貢献プログラム 復興支援プログラム 体験参加』 第一部：『石巻の現状とこれから～最後のひとりが仮設を出るまで』 ＜講師＞ 兼子佳恵 氏 (特定非営利活動法人石巻復興支援ネットワーク 代表理事) 第二部：『追悼「絵灯籠」づくり』 ＜講師＞ 小林祥子 氏 (特定非営利活動法人 COCONET/カラーセラピスト)	SSC から 3 社 4 名参加
-------------------------------	---	---------------------

(4) 「アメリカン・エクスプレス・リーダーシップ・アカデミー」

～NPO リーダーのためのリーダーシップ育成プログラム～

今年度の助成金では、平成 28 年 2 月の東京に加えて、初めての地方開催となる研修を 5 月に福岡にて実施した。研修の約半年後には、フォローアップ・セッションを開催。半年間の学びや挑戦について各自 5 分間でプレゼンテーションを行った。平成 29 年 2 月には、第 9 期となる研修を東京にて開催。

① American Express Leadership Academy Global Alumni Summit 2016

「アメリカン・エクスプレス・リーダーシップ・アカデミー」のスポンサーであるアメリカン・エクスプレス財団より招待を受けて、研修生とパートナー団体を対象にしたグローバル・サミットに当協会から担当の加勢川が出席した。

日時：平成 28 年 4 月 4 日（月）から 5 日（火）

会場：マンハッタン・コミュニティ・カレッジ（米国ニューヨーク市）

② アメリカン・エクスプレス・リーダーシップ・アカデミー 福岡

開催日：平成 28 年 5 月 12 日（木）から 14 日（土）2 泊 3 日

会場：TKP ガーデンシティ PREMIUM 博多駅前（福岡県福岡市）

福岡市 NPO・ボランティア交流センター「あすみん」（福岡県福岡市）

総合監修：米倉誠一郎氏（一橋大学イノベーション研究センター教授）

研修参加者：九州・沖縄、岡山、鳥取の NPO 次世代リーダー 26 名（公募および推薦による）

プログラム：

＜基礎講座（理念・哲学）＞

- ・「見たくない未来を超えて」（米倉誠一郎氏）
- ・「脱カリスマ時代のリーダーシップ」（米倉誠一郎氏）

＜実務講座（業務遂行能力）＞

- ・「ロジカルシンキングと問題解決スキル」
- ・「モチベーション・マネジメント」
- ・「災害救助犬の熊本地震緊急対応について」
- ・「アメリカン・エクスプレスのリーダーシップ論」等

＜グループワーク＞

- ・ビジョンワークによる、社会的課題の再認識、掘り下げ、共有
- ・課題に対する企画の作成およびプレゼンテーション準備
- ・課題プレゼンテーション

③ フォローアップ・セッション

アカデミー参加から半年を経て、学んだことをどう生かしたかを発表・共有した。

会場に来訪できないメンバーは、スカイプでの参加とした。

- ・東京会場 開催日：平成 28 年 8 月 30 日（火）
参加者：21 名（うちスカイプによる参加 1 名）
- ・福岡会場 開催日：平成 28 年 11 月 7 日（月）
参加者：19 名

- ④ アメリカン・エキスプレス・リーダーシップ・アカデミー 東京
開催日：平成 29 年 2 月 23 日（木）から 25 日（土）2 泊 3 日
会場：都市センターホテル（東京都千代田区）
総合監修：米倉誠一郎氏（一橋大学イノベーション研究センター教授）
研修参加者：NPO 次世代リーダー 30 名（公募および推薦による）

プログラム：

＜基礎講座（理念・哲学）＞

- ・「未来を拓くイノベーション」（米倉誠一郎氏）
- ・「率先垂範のリーダーシップ論」（米倉誠一郎氏）

＜実務講座（業務遂行能力）＞

- ・「ロジカルシンキングと問題解決スキル」
- ・「モチベーション・マネジメント」
- ・「アメリカン・エキスプレスのリーダーシップ論」

＜フィールドワーク＞

- ・「道端留学」（雑誌『ビッグイシュー』の販売サポート）

＜グループワーク＞

- ・ビジョンワークによる、社会的課題の再認識、掘り下げ、共有
- ・課題に対する企画の作成およびプレゼンテーション準備
- ・課題プレゼンテーション

平成 29 年 2 月のプログラムで卒業生は 280 名となった。

第 9 期は平成 29 年 5 月に福岡で開催予定である。

2. 顕彰事業

(1) 第 19 回まちかどのフィランソロピスト賞

一般部門 27 件、青少年部門 22 件の中から、書類及び訪問ヒアリングを経て、贈呈先を決定した。

＜贈呈先＞

一般部門

【まちかどのフィランソロピスト賞】

田中 孝（たなか・たかし） 様（東京都八王子市）

山内 大作（やまうち・だいさく） 様（静岡市）

【特別賞】

平 明広（たいら・あきひろ） 様（北海道帯広市）

青少年部門『青少年フィランソロピスト賞』

【文部科学大臣賞】大津市立伊香立（いかだち）中学校（滋賀県大津市）

【奨励賞】鈴木 智也（すずき・ともや） 様（島根県津和野町）

【奨励賞】小城市立砥川（とがわ）小学校（佐賀県小城市）

【奨励賞】学校法人成城学校 成城中学校・高等学校（東京都新宿区）

＜スケジュール＞

平成 28 年 5 月～7 月 20 日（水） 募集期間

平成 28 年 7 月 29 日（金） 第 1 次選考委員会

平成 28 年 9 月～10 月 ヒアリング

平成 28 年 10 月 24 日（月） 第 2 次選考委員会・贈呈先決定

平成 28 年 12 月 13 日（火） 贈呈式（於：学士会館）

＜選考委員＞

委員長 出口 正之氏（国立民族学博物館 教授）
吉田 朋代氏（ロート製薬株式会社）
小林 征人氏（大和ハウス工業株式会社）
二宮 かおる氏（カルビー株式会社）

(2) 第14回企業フィランソロピー大賞

平成28年度は、7月1日より告知を開始。自薦・他薦20件、事務局推薦17件。
第1次選考委員会にて、10件のヒアリング先を選定し、11月下旬までにヒアリングを終了した。贈呈先は下記の通り。

＜贈呈先＞

企業フィランソロピー大賞
株式会社りそなホールディングス

企業フィランソロピー賞

育てよう 大地とともに賞	株式会社ストライプインターナショナル
水と創る企業市民賞	TOTO 株式会社
希望のコミュニティ賞	日本アムウェイ合同会社
インクルーシブスイーツ賞	株式会社パレスエンタープライズ パレスホテル大宮

＜スケジュール＞

平成28年9月12日（月）	公募締切
平成28年10月5日（水）	第1次選考委員会
平成28年10月～11月上旬	各社ヒアリング
平成28年12月16日（金）	第2次選考委員会・贈呈先企業決定
平成28年12月19日（月）	贈呈先企業の発表
平成29年2月14日（火）	贈呈式（於：日本プレスセンター）

＜選考委員＞

委員長 武田 晴人氏（東京大学 名誉教授）
岩田 喜美枝氏（株式会社資生堂 顧問、公益財団法人21世紀職業財団 会長）
佐藤 雄二郎氏（一般社団法人共同通信社 専務理事）
渋澤 健氏（コモンズ投信株式会社 取締役会長）

(3) 「寄付川柳」事業

公益法人協会との共催事業。

個人の寄付文化醸成を目的に、『川柳』を通して寄付を身近に感じてもらう。
応募5420作品から最優秀賞1作品、優秀賞2作品、佳作7作品の入賞が決定。

＜スケジュール＞

平成28年11月～平成29年1月16日	作品募集期間
平成29年2月	優秀作品の選考
3月	優秀作品の発表

＜選考委員＞

鮎貝 竹生 氏（現代川柳 新思潮 正会員）
町永 俊雄 氏（福祉ジャーナリスト）
水野 タケシ 氏（川柳家、コピーライター）

3. フィランソロピーバンク事業（個人の寄付文化醸成事業）

(1) NPO への企業の従業員など個人が参画する寄付事業

社名	内容
株式会社かんぽ生命保険	保険商品でウェブ約款を選択した顧客数に応じ寄付金を拠出するプログラムで環境分野のNPO13 団体に寄付。
株式会社ジェーシービー	東日本大震災復興支援の取組みとして実施。東北 3 県の被災地で活動する 20 団体に寄付。
株式会社ファンケル	顧客のポイントを金額換算し、全国 10 ヶ所の重度心身障がい者施設に寄付。
FIL Foundation	NPO の基盤整備を目的として 3 団体に寄付。
株式会社みずほフィナンシャルグループ	社員による寄付プログラムで、様々な分野で社会課題の解決に取り組むNPO5 団体に寄付。
株式会社三井住友銀行	社員による寄付プログラムで、コミュニティ・次世代・環境の分野で活動する 20 団体、および社員がボランティアをしている 14 団体に寄付。
明治安田生命相互会社	チャリティー・コンサートの会場で集めた募金を、東北 3 県で「次世代育成」の分野で活動する 6 団体に寄付。 社会貢献活動基金を通じて、障がい者・高齢者支援および LGBT 支援を行う 8 団体に寄付。
東京海上日動あんしん生命保険株式会社	社員の給与天引き、代理店でのグッズ販売の一部を難病患儿支援団体、認知症啓発団体に平成 29 年 3 月頃寄付。
アメリカン・エクスプレス・インターナショナル・インコーポレイテッド	熊本地震の被災者支援のため、ギフトカードの売上げに応じた寄付、ならびにカード会員のポイントによる寄付を予定。
株式会社 NTT データ	社内プログラムである「バレンタインチャリティー」の収益金を、3 つの NPO に寄付。
個人 1 名	被災地の教育支援として 1 団体に寄付。

(2) 個人への奨学金などの寄付事業

① 創立 20 周年記念「東京海上日動あんしん生命 奨学金制度」

➤ 応募資格等

- ◆ 疾病により保護者を失った遺児で、経済的理由により支援を必要とし、高等学校等から大学等への進学希望がある方
- ◆ 応募時における前年度の年間世帯収入金額が、指定の条件を超えない方

- 募集期間：平成28年8月5日（金）～平成28年11月30日（水）
- 募集人数：50名
- 応募者数：91名
- 給付額：年間 30 万円

② 創立 20 周年記念「東京海上日動あんしん生命 幼児教育支援制度」

➤ 応募資格等

- ◆ 疾病により保護者を失い、経済的理由により支援を必要とする未就学の遺児かつ平成23年4月2日～平成26年4月1日生まれのお子さまを養育する方
- ◆ 応募時における前年度の年間世帯収入金額が、指定の条件を超えない方

- 募集期間：平成28年8月5日（金）～平成28年11月30日（水）
- 募集人数：100名
- 応募者数：1名
- 支援内容：株式会社ベネッセコーポレーションの「こどもちゃれんじ」を、年少～年長期間に1年間～最大3年間、無償で提供

4. 企業別CSR推進事業

(1) 従業員ボランティア支援事業

平成 26 年 11 月に、簡易サイト版として開始した「ボランティアウェブ」(企業の従業員ボランティアマッチングサイト)を、自社システムとして構築し、全面的にリニューアルを行なった。

「ボランティアウェブ」利用企業

社名	内容
株式会社 NTT ドコモ	平成 28 年 4 月より、通年で「ボランティアウェブ」(ボランティアのマッチングサイト)の利用を開始。 利用地域：東京、大阪、福岡 (7 月より札幌、名古屋を追加)
日本ロレアル株式会社	6 月の 1 ヶ月のみの期間限定利用。 全世界でのボランティア強化月間のプログラムの受入先調整および申込受付業務を受託。23 種、43 回分、500 名分のプログラムを「ボランティアウェブ」を通じて紹介した。本件受託にあたり、日英二か国語のサイトに設計変更を行なった。
株式会社ジェーシービー	平成 23 年から実施している「JCB 社会貢献プログラム」のボランティア受付管理機能を、8 月より「ボランティアウェブ」に移行。
サントリーホールディングス株式会社	平成 29 年 3 月より、社内の「働き方改革」の一環で、「ボランティアウェブ」の利用を開始。

(2) 個別コーディネート企業

社名	内容
アクセンチュア株式会社	部門毎は不定期、新入社員研修は毎月の頻度で、年 26～30 回程度のプログラムを企画運営。 ＜協働団体＞ ・日本ケアフィット共育機構 ・E S A アジア教育支援の会 ・幼い難民を考える会 ・シャンティ国際ボランティア会 ・森のライフスタイル研究所
M S D 株式会社	毎年、東京本社で 12 回、埼玉妻沼工場で 2 回、部門主導で 1 回、計 15 回のプログラムを実施中。 平成 28 年度はそれらに加えて、全国営業会議 (3,000 人参加)、新入社員研修、ならびに来年度の新卒者を対象にして、同様のボランティアプログラムを実施した。 2 月には、社内で自主運営をするための社員ボランティアリーダー養成のための半日研修を実施した。 ＜協働団体＞ ・岩手ホスピスの会 ・COCONET ・特別養護老人ホーム「サンサン赤坂」 ・東京キワニスクラブ ・ソーシャルゴミ拾いピリカ ・ファミリーハウス ・森のライフスタイル研究所 ・資生堂ジャパン (ハンドケア講習)

株式会社かんぽ生命保険	<p>年に2回、社内におけるボランティアプログラムを実施。平成28年度は、第1回目：6月17日（金）、第2回目：平成29年1月20日（金）に実施。</p> <p><協働団体></p> <ul style="list-style-type: none"> ・森のライフスタイル研究所
株式会社ジェーシービー	<p>年間を通じて全従業員が業務時間中にボランティア活動を行なうプログラムを、6年目となる今年度も受託。</p> <p><主な協働団体></p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食ボランティアグループ「赤とんぼ」 ・石巻復興支援ネットワーク ・ACE（エース） ・COCONET ・東京キワニスクラブ ・シャプラニール ＝市民による海外協力の会 ・シャンティ国際ボランティア会 ・シェア＝国際保健協力市民の会 ・世界の医療団 ・全国夢のチョコレートプロジェクト ・地球農園テラファーム ・難民を助ける会 ・日本グッドトイ委員会 ・日本ハビタット協会 ・ピースウィンズ・ジャパン ・ビッグイシュー基金 ・ふくおかNPOセンター ・ファミリーハウス ・港区社会福祉協議会 ・森のライフスタイル研究所
新日鉄住金エンジニアリング株式会社	<p>平成26年より、2ヶ月に1回の頻度でボランティアプログラムを実施中。</p> <p><協働団体></p> <ul style="list-style-type: none"> ・森のライフスタイル研究所
積水化学工業株式会社	<p>東京本社の呼びかけで、全国にある工場や子会社等単位でのボランティアプログラムを実施中。</p> <p><協働団体></p> <ul style="list-style-type: none"> ・E S Aアジア教育支援の会 ・日本ハビタット協会 ・森のライフスタイル研究所
大日本印刷株式会社	<p>従業員の被災地ボランティアプログラムの企画および実施支援中。</p> <p>10月には熊本地震被災地での活動も追加で実施した。</p>
フィリップモリスジャパン株式会社	従業員ボランティアプログラムの申込受付を支援。
日本電気株式会社	<p>共生社会の実現に向け、グループ社員の障がい者支援の充実化と認知向上を目指したプログラム。様々な障がい者のサポートの仕方を学び、次に障害者スポーツ大会でのサポート、プロスポーツを観戦する障がい者のサポー</p>

	トを実際に行い、最後に参加者全員でその経験や気づきを共有した。
	<協働団体> ・日本ケアフィット共育機構

(3) 助成支援事業

プログラム名・社名	内容
「田辺三菱手のひらパートナープログラム」 田辺三菱製薬株式会社	難病指定患者団体および支援 NPO 助成事業を支援。 第 5 期は 17 団体 1,000 万円を助成。
「JT NPO 助成事業」 日本たばこ産業株式会社	地域コミュニティ再生と活性化に取り組む NPO 助成事業の第一次書類審査を支援。

(4) 社会貢献活動支援

プログラム名・社名	内容
「国産小麦ゆめちからの栽培研究プログラム」 敷島製パン株式会社	中高生向け社会貢献プログラムの一環で食料自給率を考えるワークショップを企画・ファシリテート。平成 28 年度は、6 月 19 日（日）、千葉県利根工場にて実施。
「森と紙のなかよし学校」 日本製紙株式会社	日本製紙が所有する菅沼社有林で小学生親子を対象に行う環境教育プログラム。 第 20 回は 6 月 11 日（土）・12 日（日）、 第 21 回は 9 月 24 日（土）・25 日（日）に開催。

5. 被災地支援事業

(1) 復興応援 キリン絆プロジェクト

① 福島農業支援事業

岩手・宮城より厳しい状況に置かれている福島県に対して行う第 2 ステージの追加支援。支援においては、「地域ブランドの育成支援」、「6 次産業化・販路拡大支援」、「担い手・リーダーの育成支援」というテーマに加えて、特に地域連携を重視し、助成先とのきめ細かい協働と伴走を目指している。前年度までに決定した 8 件に加えて、平成 28 年度には追加で下記の 1 件を助成決定。平成 30 年 3 月の完了まで伴走していく。

助成先団体名・プロジェクト名	事業内容	助成金額
郡山市および郡山地域果実醸造研究会「果樹農業 6 次産業化プロジェクト 産学官連携人材育成事業」	郡山市の果樹農家に対し、専門家による実地研修などを通してワイン用ブドウの生産技術の向上を目指すとともに、関連する知識をつけてもらう人材研修事業。	10 百万円

② 「東北復興・農業トレーニングセンタープロジェクト」(フォロー)

平成 28 年度からは、平成 25 年度より 3 年間実施してきた「東北復興・農業トレーニングセンタープロジェクト」の受講生を対象に、これまでの学びをベースに今後は各自が取り組むプロジェクトの具体化に取り組んでいる一方で、トライアルのための助成金制度や、各プロジェクトの成長を追う映像フォローを実施。

③ 農業復興支援第2ステージ

「農業復興支援 第2ステージ」は、被災地の基幹産業の一つである農業において、「地域ブランドの育成支援」、「6次産業化・販路拡大支援」、「担い手・リーダーの育成支援」をテーマと掲げ、平成25年度～26年度に合計39件の助成に取り組んだ。随時フォローアップを継続。

(2) チャリティー・リレーマラソン東京2016

5回目となる平成28年度は、東北から6校、熊本から2校、東京から10校が参加。マラソンイベントの前には東北・熊本・東京参加校生徒による合同募金を実施し、また夏休みに東北被災地（岩手県陸前高田市・大船渡市・釜石市）訪問ツアーを実施した。最終的に募金総額は4,024,555円となり、8校に50万円ずつが寄付された。

特別協賛：新日本有限責任監査法人

協賛：アサヒグループホールディングス株式会社

MSD株式会社

クラシエホールディングス株式会社

株式会社ジェーシービー

東洋アルミニウム株式会社

トヨタ自動車株式会社

華為技術日本株式会社

三菱地所株式会社

東北参加校（6校）	熊本参加校（2校）
<ul style="list-style-type: none"> ・岩手県大船渡市立日頃市中学校 ・岩手県大船渡市立吉浜中学校 ・宮城県石巻市立蛇田中学校 ・宮城県大崎市立古川中学校 ・東北学院中学校 ・福島県いわき市立勿来第一中学校 	<ul style="list-style-type: none"> ・高森町立高森中学校 ・高森町立高森東中学校

東京参加校（10校）	
<ul style="list-style-type: none"> ・中央区立銀座中学校 ・墨田区立両国中学校 ・江東区立有明中学校 ・江東区立深川第一中学校 ・江東区立深川第二中学校 	<ul style="list-style-type: none"> ・足立区立栗島中学校 ・練馬区立大泉中学校 ・八王子市立四谷中学校 ・調布市立第六中学校 ・東京学芸大学附属国際中学校

<イベント実施内容>

日程	イベント内容	場所
5月14日(土)	東北熟議	東北学院大学 土樋キャンパス
5月29日(日)	東京熟議	クラシエホールディングス株式会社会議室 新日本有限責任監査法人会議室
6月4日(土)		
6月11日(土)		
6月～7月	東京参加校による募金活動	都内
7月16日(土)	合同募金活動 歓迎会	都内
7月17日(日)	リレーマラソン 募金贈呈式	都内 新日本有限責任監査法人会議室

8月23日（火） ～24日（水）	東北スタディツアー	陸前高田市・大船渡市・釜石市
12月3日（土）	寄付金使途報告会	東北学院大学土樋キャンパス ホーイ記念館

(3) サントリー・チャレンジド・アスリート

3年目の今年度は第三期「チャレンジド・アスリート奨励金」の公募、審査、助成をはじめ、「チャレンジド・スポーツアカデミー」として毎月岩手県・宮城県・福島県3県の小中学校の体験教室実施し、第三期「チャレンジド・スポーツ育成サポート」を実施している。

① 第三期「チャレンジド・アスリート奨励金」

平成28年12月12日（月）に審査会を実施。27団体、69名の申請団体（者）から審査し、21団体、50名に給付。

平成29年1月16日（月）に岩手県、宮城県、福島県にてそれぞれ給付選手とともに記者発表を実施した。

<審査員> 4名

田口 亜希氏（パラリンピアン：射撃、一般社団法人日本パラリンピアンズ協会 理事）

福留 史朗氏（パラリンピアン：陸上、一般社団法人日本パラリンピアンズ協会 理事）

増子 恵美氏（パラリンピアン：車椅子バスケットボール、一般社団法人日本パラリンピアンズ協会 理事）

高橋 陽子（公益社団法人日本フィランソロピー協会 理事長）

② 「チャレンジド・スポーツアカデミー」

・アスリート・ビジット

チャレンジド・スポーツに対する子どもたちの理解を深めるため、チャレンジド・アスリートなどが3県の学校を訪問し、講演や競技体験会などを実施。

開催日	実施会場	生徒数	実施競技
平成28年 4月27日	岩手県大槌町立大槌学園中等部	76名	車椅子バスケットボール
6月15日	福島県広野町立広野中学校	69名	車椅子バスケットボール
7月14日	宮城県利府町立利府西中学校	120名	車椅子バスケットボール
8月24日	岩手県宮古市立第一中学校	90名	車椅子バスケットボール
10月25日	福島県立相馬市立桜丘小学校	70名	車椅子バスケットボール
11月29日	宮城県亘理町立荒浜中学校	90名	車椅子バスケットボール
11月30日	岩手県山田町立豊間根中学校	64名	車椅子バスケットボール
平成29年 1月11日	福島県飯館村立飯館中学校	88名	車椅子バスケットボール
2月17日	宮城県山元町立坂元中学校	77名	車椅子バスケットボール

・チャレンジド・スポーツ体験教室
学校ではなく公募によりチャレンジド・スポーツの体験会を実施。

開催日	実施会場	参加者数	実施競技
平成 28 年 6 月 4 日	東北学院大学 泉キャンパス	220 名	車椅子バスケットボール

③ 「チャレンジド・スポーツ育成サポート」
チャレンジド・スポーツ育成のため、基盤強化・環境整備などを支援。
本年より各県にて車椅子導入教室を開催し、障害者スポーツのすその拡大に向けた講座を実施した。

(岩手県) 陸上用車椅子 2 台、児童体験用障害者スキー用具 2 セット
(宮城県) 陸上用車椅子 2 台、児童体験用競技車椅子 2 台、ハンドバイク 2 台
(福島県) 競技用車椅子 12 台 会津総合体育館修繕費

車椅子導入教室

開催日	実施会場	参加者数	講師
平成 28 年 7 月 9 日	宮城県多賀城市総合体育館	25 名	橋本大佑氏 (ドイツ障害者スポーツ連盟公認リ ハビリテーションスポーツ指導者) 上原大祐氏 (平成 22 年バンクーバー・パラリン ピックアイスレジャホッケー銀メダ リスト)

Ⅲ. 共生社会創造事業（公益目的事業 3）

1. 「寄付育」事業

地域課題を題材にした課題解決学習を通して、子どもたちの「生きる力」を育てる教育機会を創出、普及する。

【H28 年度 公益財団法人 JKA「児童、高齢者、障害者が相補的に関わることのできる地域共生型社会づくりを促進する活動」助成事業】

<事業内容>

- ・推進委員会の開催（第 1 回平成 28 年 4 月 19 日／第 2 回平成 28 年 5 月 30 日／第 3 回平成 29 年 3 月 16 日）
- ・小・中学校でのプログラム実施支援
 - ・職場体験学習を活用した企業連携プログラムのトライアル実施
 - ・小中学校でのプログラム実施支援
(杉並区立杉並和泉学園、墨田区立両国中学校、福岡県福津市立福岡中学校、佐賀県小城市立砥川小学校、熊本県高森町立高森中学校、熊本県高森町立高森東中学校)
- ・教員向けセミナーの開催
 - 【東京】8 月 27 日（日） 参加者 15 名
 - 【福岡】11 月 27 日（日） 参加者 14 名
- ・シンポジウムの開催
 - 【東京】平成 29 年 3 月 18 日（土） 参加者 60 名

・報告書

各校の事例やシンポジウムの講演内容を掲載した報告書を作成・配布した。

配布先：関東を中心とした公立小中、高等学校および私立小中学校、国立小中学校、教育委員会、社会福祉協議会等

<推進委員長> 唐木 清志氏（筑波大学 人間系 准教授）

<推進委員> 宮地 勘司氏（株式会社教育と探求社 代表取締役社長）

室木 忠雄氏（足立区教育委員会）

川中 大輔氏（シチズンシップ共育企画 代表）

2. 子どもの貧困 対策プロジェクト

(1) 日本における子どもの貧困勉強会

複数企業・複数NPO・中央省庁・自治体などとの協働による「子どもの貧困」課題解決に向けた協働プロジェクトを推進。関心のある企業担当者のための勉強会を開催。

実施日	内容	参加者数
第1回 平成28年 3月4日	<講師> 児玉 泰明氏 内閣府政策統括官（共生社会政策担当）付（総括担当） （子どもの貧困対策担当）（高齢社会政策担当）	36名
第2回 4月12日	<講師> 横田 宗氏（特定非営利活動法人アクション 代表）	29名
第3回 5月24日	<講師> 松田 雄年氏（児童養護施設東京家庭学校 施設長）	20名
第4回 6月29日	<講師> 内田 光喜氏（アサヒビール株式会社 社会環境部 課長補佐） 崎村 奏子氏（楽天株式会社 CSR 部） 山尾 ゆり氏（フィリップモリスジャパン株式会社 コーポレート アフェアーズ CSR・社会貢献スーパーバイザー）	21名

(2) 子供の支援に携わるボランティア育成等事業

上記の日本における子どもの貧困勉強会での内容を踏まえ、特に人（従業員ボランティア）による支援に重点を置き、子どもの支援に携わる意向を有する者に向けた研修の実施等を通じて支援に携わる大人の数を増やすことを目的に、独立行政法人福祉医療機構より助成を受け、標記事業を実施。

<事業内容>

・子どもの支援ボランティア育成等検討会

平成28年9月以降、計7回に渡り、普通の大人が子どもの貧困支援ボランティアに携わる契機となる教材、研修プログラム、シンポジウムの内容等を企画・検討。

（検討会委員）

小河 光治 氏 （公益財団法人あすのば 代表理事）

田中 康之 氏 （株式会社リンクアンドモチベーション）

徳永 京子 氏 （保健師）

前野 隆司 氏 （慶應義塾大学システムデザイン・マネジメント 研究科 教授）

本間 博彰 氏 （医師（あさかホスピタルこどもの心診療部長））

松田 雄年 氏 （児童養護施設東京家庭学校 施設長）

・シンポジウム（子どもの貧困支援ボランティアと人間力の強化）

東京（平成29年1月17日）及び大阪（同年2月27日）において、上記検討会を通じた子どもの貧困に関する問題意識や普通の大人が携わる意義に加え、研修プログラムに登壇する講師の一部から、実際に支援の場に参加する人の心理的ハードルを下げるための研修プログラムの概要をグループワークや、実際に子ども支援に参加している企業人の方からの

講演も交えて開催。

開催日	開催地	申込者数
1 月 17 日	東京	79 名
2 月 27 日	大阪	33 名

- ・研修プログラム（子どもの貧困支援ボランティアと人間力の強化）

上記シンポジウムの後、東京都内で計 4 回に渡り、特に企業に勤める一般社員を主たる対象として、普通の大人が子ども支援に携わることによる、大人・子ども双方にとっての意義や、実際に支援の場での子どもとのコミュニケーションの取り方を学ぶグループワークを取り入れた研修プログラムを開催。

開催日	開催地	申込者数
2 月 2 日	品川	17 名
2 月 10 日	渋谷	20 名
3 月 1 日	丸の内	37 名
3 月 15 日	新橋汐留	29 名

- ・スターティングノート制作

シンポジウムや研修プログラムだけでは伝えられない困難を抱える子どもの状況に関する物語および、ボランティアの役割や参加に当たっての心構えなどを紹介した 2 冊子を制作し、シンポジウムや研修プログラム参加者へ配布した。

3. フィランソロピー名刺事業

フィランソロピー普及と障がい者の経済的自立のための名刺制作事業。

一般社団法人障がい者アート協会と連携し 23 作品を追加した。さらに NPO 法人あいアイの 1 作品を追加。これにより、連携する個人・団体は 11 に、作品数は 107 となった。

また、協会ホームページよりダウンロードできる作品カタログ（冊子）を新たに作成した。

1 件：100 枚					
年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度
制作件数	343	380	270	333	356

4. インターンシップ受入れ

これからの社会貢献活動を担う次世代の育成を目的として、積極的にインターンシップ受け入れに取り組んでいる。平成 28 年度はこれまで延べ 8 名受け入れ。

- ・武蔵野大学 4 名（8/9-9/8 に 3 名、2/10-3/3 に 1 名）
- ・専修大学 1 名（8/16-29）
- ・多摩大学 2 名（8/3-17 に 1 名、2/15-2/18 に 1 名）
- ・日本農業経営大学校 1 名（10/3-14）

Ⅳ. 会員の推移

	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度
正会員	37	34	34	33	29
賛助会員(法人)	74	80	79	81	88
法人 計	111	114	113	114	117
賛助会員(個人)	89	88	89	83	88

《正会員》

昨年度末の正会員数は 33 社であったが、今年度は以下の通り 4 社減少した。

- ・カネパッケージ株式会社
- ・インタープレイ株式会社
- ・日本郵船株式会社（正会員より賛助会員へ種別変更）
- ・富士電機株式会社（正会員より賛助会員へ種別変更）

《賛助会員》

昨年度末の賛助会員数は、81 社であったが、今年度は以下の通り 9 社増加し、2 社減少した。

増加 9 社

- ・株式会社 T G K
- ・株式会社 リジョブ
- ・大鵬薬品工業株式会社
- ・クォンツリサーチ株式会社
- ・日本オラクル株式会社
- ・阪急阪神ホールディングス株式会社
- ・アイディール・リーダーズ株式会社
- ・日本郵船株式会社（正会員より賛助会員へ種別変更）
- ・富士電機株式会社（正会員より賛助会員へ種別変更）

減少 2 社

- ・バークレイズ証券株式会社
- ・東邦ホールディングス株式会社

以上